

プレスリリース
2022年4月20日

CONTACT: Masako Miki
mmiki@janm.org
213.830.5636

全米日系人博物館は開館 30 周年を記念し 「30 チェンジメーカーズ・アンダー30」を発表

全米日系人博物館 (JANM) は、4月30日に開催する開館 30 周年アニバーサリー・ベネフィットで、「30 チェンジメーカーズ・アンダー30」を表彰します。1985年に設立された JANM は、日系アメリカ人の経験を共有することを通して、アメリカの民族的・文化的多様性に対する理解と認識を促進してきました。

JANM は 1992 年、旧西本願寺であるヒストリック・ビルディングで一般開館しました。そこから未来に目を向けたとき、コミュニティを力強いものとしてきた過去の表彰者と次の世代のつながりを祝います。30人のチェンジメーカーは、JANM のミッションを体現し、芸術、ビジネス、文化、教育、政治、スポーツ、テクノロジーなどの分野での並外れた貢献によって選出されました。

エマ・アンダーソンは、ラジオ DJ、ポッドキャスター、ソフトウェアエンジニアとして、沖縄にルーツを持つ人々の物語や伝統を伝えています。

エリン・アオヤマはジャパニーズ・アメリカン・メモリースケープ・プロジェクトの共同ディレクターであり、公正さに基づく歴史の語りの可能性を探求しています。JANM の学芸調査員でもあります。

ケイトリン・エミコ・チューは、起業家でプロダクトデザイナーであり、クリエイティブなストーリーテラーとして、さまざまなメディアやコミュニティの組織を通じて、生活に影響を与え、現在の問題に対して行動を起こしています。

クレイグ・フジイは、仮想現実と拡張現実を専門とするイマーシブ・テクノロジー・デザイナーです。ソニー、ロサンゼルス・タイムズ、JANM などのクライアントと仕事をした経験を持ちます。

ディナ・アリス・フサエ・フルモトは、日系アメリカ人の経験について一般の人々を教育し、インクルーシブな環境を作り出しています。

ケイラ・サチ・ガバリヨは、メンタルヘルス教育、ダイバーシティ・リプレゼンテーション、社会正義の実現に情熱を注ぐアーティストであり慈善起業家です。

ジョナサン・ヴァン・ハーメレンは、カリフォルニア大学サンタクルーズ校の博士課程に在籍していて、日系人強制収容の歴史を専門に研究しています。

サラ・ハッターは、2015年二世クイーン。保険代理店・ブローカー、The J. Morey Company Inc. の地域連携コーディネーターであり、同社がサービスを提供する地域社会との関係を構築しています。

ブライス・イケムラは、アジアをメイン顧客にした、多文化マーケティング会社 TDW+Co のパートナーシップ・マネージャーで、Kizuna の理事長、ガーデナ平原日本文化会館の特別理事を務めています。

ブランドン・イシカタはアーティストで、イリノイ大学シカゴ校の大学講師でもあります。日系アメリカ人市民同盟 (JACL) でリーダーの一人でもあります。

ノーラン・ミノル・ジンボはシカゴ現代美術館のマージョリー・サスマン・キュレーター・フェローであり、現代アーティストとの展覧会やパフォーマンスを企画しています。

ジャスティン・カワグチは、現在、Okaeri : 日系 LGBTQ+ コミュニティーの共同代表を務めています。また、JACL の全米理事も務めています。

コール・ユウジロウ・カワナは、第二次世界大戦を生き抜いた日系アメリカ人のオーラルヒストリーを保存・共有するために人工知能アバターを開発する非営利団体ジャパニーズ・アメリカン・ストーリーズの創設者兼代表取締役です。

エイダン・コサカは、リトル東京に大学生を招き、地域のスモールビジネスを支援するためのリーグ、NHoops のディレクター代理を務めています。また 2028 年オリンピックのロゴ制作者に選ばれています。

エミコ・オテラ・クランツは、UCLA でアジア系アメリカ研究の修士号と地域保健科学の MPH を取得し、人種の健康についての公平性とコミュニティを中心としたヘルス・プラクティスの研究を行っています。

ケンジ・クラミツは心理療法士で作家であり、反人種差別の組織化や神学教育での経験を生かし、臨床、リトリート、運動の場でメンタルヘルスとスピリチュアルケアを提供しています。

クリスティ・ミエコ・リンは、カリフォルニア州サンディエゴにあるフォーリング・ウォータース・ランドスケープのアーティストであり、主任造園家です。

デボン・マツモトは、構造的な人種差別を終わらせるための組織で活動する一人であり、サンノゼ日系レジスターとヤン仏教エディトリアルコミュニティ・オーガナイザーでもあります。

コウタ・ミズタニは、米国下院教育労働委員会のボビー・スコット委員長（VA-03）の報道官を務めています。

ニナ・ナカオは、JANM のバーチャル・ラーニング・コーディネーターとして、1年生から12年生、大学、社会人グループ向けの全米規模のプログラムを開発・運営しています。

アレック・ナカシマは、アジア系アメリカ人の視点と、時間をかけて新しいものを生み出している複数の文化を紹介するファッション・ライフスタイルブランド「AKASHI-KAMA」の創設者兼クリエイティブディレクターです。

メーガン・トミコ・オノは、アメリカン・ホンダ・モーター社でコーポレート・ソーシャル・リスポンシビリティ・プロジェクトリーダーを務め、青少年の支援に携わっています。また次世代にグローバル市民としての役割を伝えていく Kizuna のボードメンバーでもあります。

マリコ・ロックスは、イエール大学大学院修士課程在学中。JACL 全米学生・青年協議会東部地区代表を務めています。

ミヤ・ソマーズさんは、カリフォルニア大学バークレー校のアジア太平洋系アメリカ人学生デベロップメント部の副部長で、サンフランシスコ州立大学でアジア・アメリカ研究の修士号を取得しています。

ミエ・エラ・スギノは、日系韓国系アメリカ人のアーティストで、記憶や強制立ち退き、損失といった表現しがたいテーマをイメージに凝縮した作品を制作しています。

ヴィニシウス・タグチは日系ブラジル人で、JACL ツインシティー支部長、JACL 中西部地区初代副知事を務めています。

カイ・バンダーリップは、ワシントンのテスラ STEM 高校の3年生で、文学プロジェクトを立ち上げ、学区内の小学校の図書館に強制収容に関する6冊の絵本を加え、1万4千人の生徒が閲覧できるようにしました。

マシュー・ワイズブリーは、現在、ロサンゼルスで JACL ナショナルで教育・コミュニケーション・コーディネーターを務めています。

ジョイ・エミ・ヤマグチは、四世のコミュニティ・オーガナイザー、奴隷制度廃止論者であり、JANM のパブリック・プログラム・スーパーバイザーとして、博物館のミッションや展示に焦点を当てたイベントの企画・監督を行っています。

デレク・T・ヤマシタは、The Hidden Japan のクリエイティブ・ディレクターであり、地域社会や政府と協力し、これらの地域が抱えるさまざまな問題に取り組むことで、大都市以外の日本の、よりディープな側面をプロモートしています。

「30 チェンジメーカーズ・アンダー30」選考委員会の方々のご協力とご審査に感謝申し上げます。選考委員は、JANM トラスティーのケリー・ナカマ、JANM ガバナーのリチャード・M・ワタナベ、そしてジェニファー・ヒラノ、エイミー・ワタナベ、ステファニー・ニツタハラ、クリステン・フクシマ、ナンシー・オオクボ（MUFJ Union Bank, N. A.）、セバスチャン・オンティヴベロス（Toyota Motor North America）です。

30 周年アニバーサリー・ベネフィットでは、JANM のミッションの現在との関係性と普遍性をハイライトし、歴史から得た教訓と革新的な新しい戦略を活用して当館の展示やプログラムを再構築し、次の世代に向けてインスピレーションを届け、インクルージョンと社会正義のための闘いを続けていく、次の 30 年への期待を皆さんと共有したいと考えています。司会は、ロサンゼルス KTLA 5 モーニングニュースで共同キャスターを務めるフランク・バックリーと、ジャパニーズ・アメリカン・メモリースケープ・プロジェクトの共同ディレクターであるエリン・アオヤマが務めます。

オンライン・オークションやビッド・フォー・エデュケーション、2022 年レクサス・オポチュニティー抽選については、janm.org/30th-benefit をご覧ください。30 周年ベネフィットのバーチャルプログラムは、JANM の YouTube チャンネル [@janmdotorg](https://www.youtube.com/channel/UCjanmdotorg) で 4 月 30 日の午後 5 時から午後 7 時までライブストリーミングで配信いたします。

JANM の [オンライン・オークション](http://janm.org/30th-benefit) は 4 月 23 日に入札を開始します。地元のビジネスや企業パートナーの商品やサービス、才能あるアーティストの作品などが並びます。JANM の [ビッド・フォー・エデュケーション](http://janm.org/30th-benefit) プログラムでは、このプログラムによって、毎年 12,000 人以上の小中学生と先生が JANM にフィールドトリップを行なっています。このプログラムへのご寄附は、生徒たちの博物館への訪問を実現するとともに、昨年開始した JANM の新しいバーチャル訪問プログラムを充実させるのにも役立てられます。ご寄附は、janm30th.givesmart.com を通じたオンライン、郵送、または電話にて受け付けています。2022 年レクサス・オポチュニティー抽選での調達資金は、JANM の教育プログラムおよびアウトリーチに役立てられます。

###

全米日系人博物館（JANM）

1985 年の設立より、JANM は日系アメリカ人の経験を共有することによって、アメリカの民族的・文化的多様性への理解と認識を深めています。ロサンゼルスダウンタウン、歴史あるリトルトーキョー地区に位置する JANM は、伝統的な博物館のカテゴリー

を超えたハイブリッドな施設で、日系アメリカ人の声を伝えるとともに、あらゆる人が自分たちのヘリテージや文化を探求できる場を提供することを目指しています。1992年の一般公開以来、JANM は 70 展以上の展覧会を開催し、そのうち 17 展はアメリカの Smithsonian 博物館やエリス島移民博物館をはじめ、日本や南米の主要な博物館など世界各地を巡回しました。当館についての詳細は janm.org をご覧いただくか、ソーシャルメディア@jamuseum でフォローしてください。